# 第1章　中央区の概要

## 1 地　勢

○中央区は、新潟市の放射状に伸びる交通軸の要に位置し、北は日本海に開け中央には信濃川、東に栗ノ木川、西に関屋分水路、南に鳥屋野潟、さらに海岸線の白砂青松という水と緑に囲まれた地域です。

○区の面積は新潟市の全面積（726.28km$^2$）の約５％を占める37.75km$^2$で、８区の中で一番小さくなっています。

○地勢はおおむね平たんですが、鳥屋野潟周辺をはじめ、海抜ゼロメートル以下の地域もあり、また、海岸部に連なる砂丘がわずかに高台をなしています。

○区内では土地の高度利用が進み、様々な都市機能が集積しています。一方で、国の重要文化財である萬代橋や、みなとまちの歴史的建造物など、伝統的文化を感じることのできるまちなみも存在しています。

上空より区内を望む

重要文化財萬代橋

## 2 歴　史

○寛永年間（1622～44年頃）

海岸砂丘部及び亀田郷の内陸砂丘部と自然堤防に次々と村ができ、現在の村の原型が出そろいました。

○明暦元（1655）年

新潟町が白山・寄居島へ移転し、現在の町割りの原型となり、この時期に西回り航路が整備されました。

○貞享元（1684）年
沼垂町が阿賀野川・信濃川の川欠けにより、４度の移転を経て現在地に落ち着きました。

○元禄年間（1688～1704年頃）
日本海側最大の港町となりました。

○延享３（1746）年
信濃川右岸の大きな中洲・附寄島の開発が、安倍玄的ら５人により開始され、寛延３（1750）年に完了し、流作場新田と呼ばれました。

○明和５（1768）年
新潟町で長岡藩の御用金賦課をきっかけに町民が蜂起し、２ヵ月にわたり涌井藤四郎を総代とする町民による自治が行われました。

○天保14（1843）年
新潟町は幕府領となり、初代新潟奉行として赴任した川村修就は、砂防林の造成、物価の安定、海岸防備、風俗の改善など様々な施策を行いました。

○安政５（1858）年
新潟町は修好通商条約で開港５港の一つとなり、明治元（1868）年に開港しました。

○明治３（1870）年
県庁所在地となり、開化政策が積極的に進められ、明治10（1877）年までに新潟郵便役所、国立銀行などが置かれました。

○明治12（1879）年
新潟町に寄居白山外新田が編入され区政が施行されました。

○明治22（1889）年
関屋村古新田と合併し、全国で最初に誕生した39市の一つとして市制が施行されました。

○大正３（1914）年
新潟市と沼垂町は近代埠頭の築造を期して合併しました。

○昭和４（1929）年
萬代橋は現在の３代目に架け替えられました。

○昭和18（1943）年
石山村・鳥屋野村と新潟市は合併しました。

○昭和30（1955）年
新潟大火では市役所をはじめ、中心市街地の多くの建物が焼失しました。

○昭和39（1964）年
新潟国体が開催されました。国体に向けた整備のため、市街地の堀が全て埋め立てられました。また、同年マグニチュード7.5の新潟地震が発生し、被害は新潟市中心部に集中しました。

○昭和47（1972）年
関屋分水路が通水しました。

○昭和53（1978）年
北陸自動車道・新潟―長岡間が開通し、平成９（1997）年までに関越自動車道・北陸自動車道・磐越自動車道が全線開通しました。

○昭和57（1982）年
上越新幹線・新潟―大宮間が開通しました。

○平成３（1991）年
上越新幹線が東京駅に乗り入れ、新潟―東京間が日帰り圏内となり、新潟市は日本海側の高速交通拠点となりました。

○平成８（1996）年
拠点性を高めた新潟市は、中核市に指定されました。

○平成13（2001）年1月
平成の大合併で、黒埼町と合併しました。

○平成14（2002）年
日本・韓国で開催されたワールドカップサッカー大会では、新潟スタジアム（ビッグスワン）が試合会場となりました。

○平成17（2005）年3月
新津市、白根市、豊栄市、小須戸町、横越町、亀田町、岩室村、西川町、味方村、潟東村、月潟村及び中之口村の12市町村と合併しました。

○平成17（2005）年10月
巻町と合併しました。

○平成19（2007）年4月
新潟市は本州日本海側初の政令指定都市となり、「中央区」が誕生しました。

○平成20（2008）年5月
主要国首脳会議（G8*サミット）の労働大臣会合が朱鷺メッセで開催されました。

○平成21（2009）年9月～10月
第64回国民体育大会（トキめき新潟国体）・第９回全国障害者スポーツ大会（トキめき新潟大会）が開催されました。

○平成22（2010）年10月
APEC*食料安全保障担当大臣会合が朱鷺メッセで開催されました。

○平成26（2014）年8月
新潟市・沼垂町合併100周年記念事業を開催しました。

○平成28（2016）年4月

主要国首脳会議（G7*サミット）の農業大臣会合が朱鷺メッセで開催されました。

○平成29（2017）年8月

中央区役所が市役所庁舎内から古町地区のNEXT21に移転しました。

中央区役所（NEXT21）と新潟市役所ふるまち庁舎（古町ルフル）

○平成30（2018）年4月

新潟駅高架第1期開業及び新幹線と在来線の同一乗り換えホームの供用が開始されました。

○平成31（2019）年1月

新潟開港150周年を迎えました。

○令和元（2019）年5月

金融・世界経済に関する首脳会合（G20*サミット）新潟農業大臣会合が朱鷺メッセで開催されました。

○令和4（2022）年3月

古町ルフル広場が完成し、新潟市役所ふるまち庁舎も入居する複合商業施設古町ルフルがグランドオープンしました。

○令和4（2022）年6月

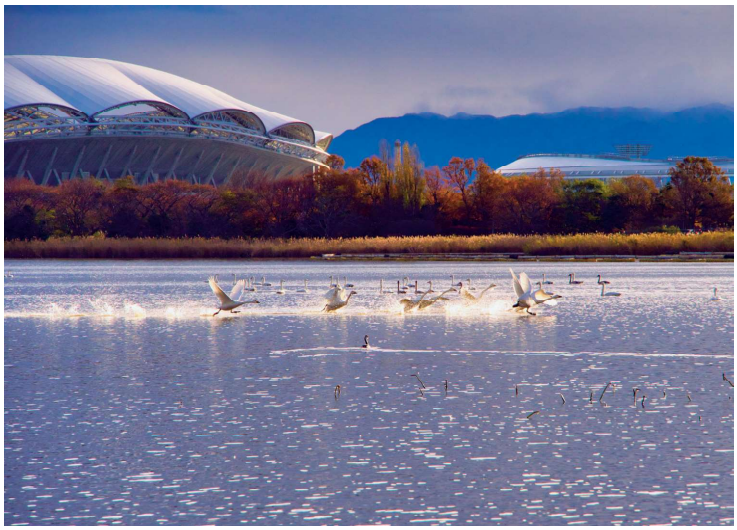
新潟駅の高架化工事が完了しました。

## 3 自　然

○新潟市の中心部に位置する新潟西海岸は、日本海に面し、飛砂と強風からまちを守るための防風林として江戸時代末期よりクロマツが植林され、現在では多様な動植物を有する市民の貴重な自然資源となっています。

○中央区を流れる信濃川の両岸には、全国初の緩やかな堤防（やすらぎ堤）が整備され、緑地や遊歩道、サイクリングコースなど、河川と一体となった親水空間として、人々が集い、憩えるやすらぎの場となっています。

○鳥屋野潟は、市街地に隣接し、貴重な自然環境を活かした市民の憩いの場として、また、市民の生活を守る遊水地として、治水上も大きな役割を果たしているほか、ガンカモ類の集団飛来地であるとともに、湖岸にはヨシが優占する広大な湿性草地が形成され、多様な動植物の生育・生息環境となっています。



白鳥と鳥屋野潟

## 4 人　口

○人口　　180,345人（8区の中で最多）

○世帯数　　90,860世帯（8区の中で最多）

○1世帯あたりの人口　　2.0人（8区の中で最小）

○中央区年齢階層別人口、将来推計人口（階層別）

老年人口（65歳以上）の割合　26.5.%（市全体の割合29.7%）

（出典）国勢調査（R2）

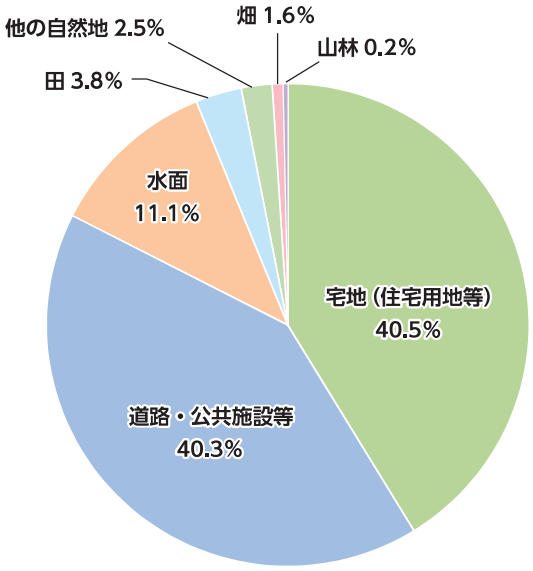
## 5 土地利用

○都心を擁する区として、様々な都市機能が集積し、土地の高度利用が図られています。

○面積　　37.75km$^2$（8区の中で最小）

○用途別土地利用面積の割合

宅地が占める割合が最も高くなっています。




資料：新潟市都市計画基礎調査（H30）

## 6 産　業

○中央区は、新潟市の経済をけん引する中枢の役割を担っており、商業の事業所数や年間商品販売額は８区の中で最も多く、特に飲食料品、建築材料などの卸売業や衣料品、飲食料品などの小売業の割合が高くなっています。

○工業の事業所数は、食料品製造業、印刷・同関連業の割合が高くなっています。

○農業では、女池菜が新潟市の食と花の銘産品*に指定されています。
また、中央区は市内最大の消費地であることから、市内産農産物の認知度を高めるとともに地産地消に努めています。

○北前船の交流により江戸時代初めから技術を積み重ねることで、伝統的工芸品に指定された新潟漆器や、良質な水や水運を活かした酒、みそ、しょう油、こうじ、漬物などの発酵食品も有名であり、これらを活かした新たな取組が進められています。

女池菜

酒造り

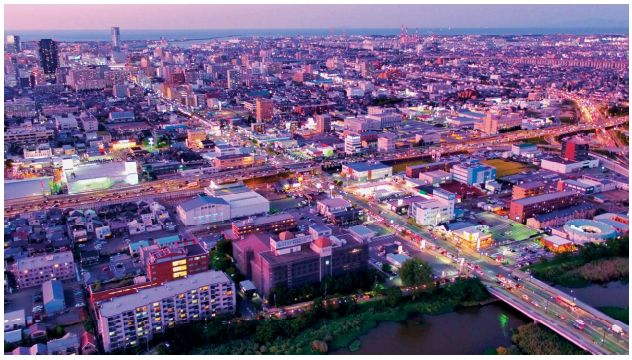
## 7 交　通

○区内には、国道７号や８号など複数の国道の起終点があるほか、主要な県道も中央区を起点に複数の路線が整備されており、北陸自動車道、磐越自動車道、日本海東北自動車道の３路線へのアクセスも良好です。国道７号と８号の一部区間は、全国でも有数の交通量を誇る新潟バイパスとしてまちの発展を支える大動脈となっています。また、新潟バイパスに接続する栗ノ木バイパスでは立体道路の整備も進んでおり、新潟駅や新潟空港をはじめとする区内外の交通結節点*や様々な施設等が結ばれています。

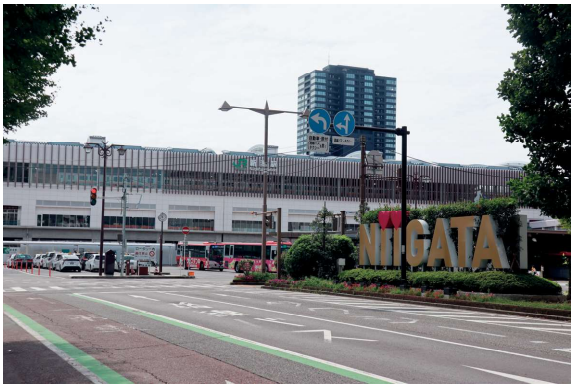
○鉄道は、上越新幹線や在来線３路線が乗り入れている新潟駅があり、陸の玄関口として公共交通の結節機能強化に向けた整備が進んでいます。また、区内へ新たな駅の設置も決定しています。

○バスは、市内中心部や郊外に向けて多様な路線が運行されているとともに、新潟駅周辺は県内外主要都市への高速バスの発着地となっています。

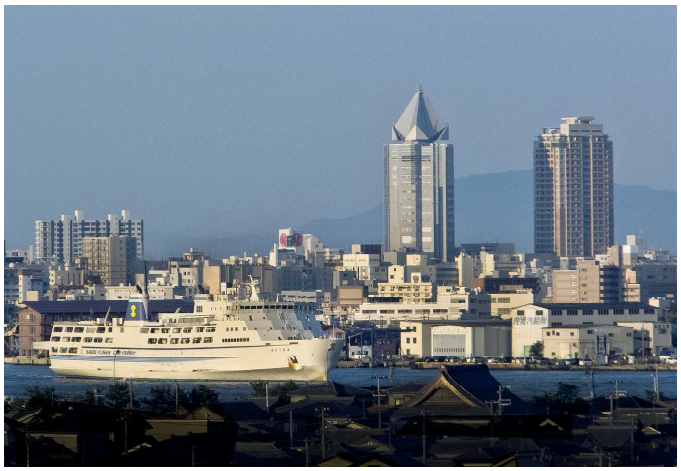
○海路では佐渡航路があり、信濃川においては、水上シャトル便が運行されています。また、隣接区の新潟港山ノ下ふ頭からは関西や北海道への航路も就航しています。



整備された道路網




新潟駅



佐渡汽船とまちなみ